



NO.

いちよう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

名月

住職 平田真純

大都会東京の下町で、ビルや高速道路に囲まれながらも、こんもりと盛り上がった木々豊かな待乳山、そしてその前をゆったり流れる隅田川。この景色は今でも風情がありますが、かつてはさらに風光明媚な地として、大変有名でした。

待乳山およびその周辺は四季折々の風情がある名所で、月見、紅葉、雪見、川沿いの花見などで楽しまれていたことが様々な資料からうかがえます。今は季節的に月見ですが、待乳山から望む名月は、詩にも多く詠まれ、江戸期には浮世絵にも多く描かれました。

秋は月が美しく輝く季節として、古来愛でられています。収穫の季節でもあることから、併せて祝う風習もあります。夜空に浮かぶ神秘的な月に見入れば、自然と感謝の気持ちも生まれてくるでしょう。太陽の照りつける光に対して、そのしっとりとした月光は、心を落ち着きへと導き、古くから東洋で、「陰陽」の「陰」の象徴とされていたのも理解できます。

仏教では、満月は私たちが本来持っているはずの円満な智慧の象徴として説かれ、それを遮る雲が煩惱の象徴とされます。密教には、「月輪観」という観法が伝わっています。満月というシンボルを心に捉え、本来の善心を見出すということです。転じて罪障消除を願う観法にもなっています。

仏様の教えとは、月、太陽、星などの天体の運行、また地球上の自然の営み、世の中の動きすべてが円かな真実であり、そのありのままを受け入れることで、心が調えられることといえるかもしれません。それをそのまま聖天様の功德に置き換えれば、私たちの様々な悩みや希望を聖天様に託すことで、まわりの環境、状況という小宇宙が円かな真実と映り、そのありのままを受け入れ、心が調うことで、自然と新たな発展につながるといえることにはなるのではないのでしょうか。

待乳山の本堂内陣には、「日天」「月天」の画が左右に掲げられています。外陣の「龍」と「天女」の天井画と同じく、堅山南風画伯の作品ですが、お日様とお月様が神様として仏法を護り、聖天様の功德を祝福している証でもあります。

待乳山便り

開山会 ご報告 九月二十日、開山会大法要が行

われました。法要終了後は大広間にて住職のお点前が披露され、お抹茶の接待がありました。

七五三 受付中 七五三参りの予約を受け付けて

おります。特に土日はお申込みが多い場合がございますので、お早めにご予約ください。

ご志納金 五、〇〇〇円

星まつり受付案内 翌年の除災延命を祈願する星

まつりの受付を寺務所にて開始いたしました。用紙に氏名年齢をご記入の上、お申込みください。

講金 一、五〇〇円（御一人増毎五〇〇円）

信徒旅行 満員御礼のご案内 平成三十年の信

徒旅行は、ご好評につき定員となりました。お申込みありがとうございます。

待乳山聖天 お月見の会 開催のお知らせ

十月二十四日 午後五時開場 午後六時開演

参加料 一、〇〇〇円

昨年の観月祭に引き続き、今年も当山でお月見の会が開催されます。

今回は午後六時より本堂で月待法要（僧侶による

声明）を執り行い、午後六時半より聖天町ゆかりの

義大夫演奏家、竹本弥乃夫師匠、歌舞伎

囃子望月流宗家の二代目、望月太左衛門様

に演奏していただきます。

秋の名月と音楽をお楽しみください。



十一月御縁日大法要 行事紹介

写経供養会

四十周年記念法要

十一月十一日(日) 午前十一時三十分

講金 一、五〇〇円

十一月十一日、写経供養会四

十周年記念法要を行います。

仏道の実践には様々な方法

があります。お経を書き写す

ことは古くから自分自身の信

仰を深め、大きな功德があると

考えられてきました。当山でも

昭和五十三年から写経の会が

始まり、今年で四十周年を迎えます。

今年の写経供養会では、今年度写経の会で奉納さ

れたお写経を本堂ご宝前にて供養し、法要終了後に

写経の会四十周年を記念した式典を行います。

また例年通り納経した巻数が五十巻ごとに達した

方の表彰も行います。該当される方には、事前にお

葉書にてご連絡いたします。おいでいただける方は、

定刻までに本堂にお集まりください。

当日は通常通り写経の会を行う他、会員の方に記

念品が授与されます。ぜひ法要と式典にもご参加く

ださい。



畳講

十一月二十日(火) 午前十一時

講金 一、五〇〇円

今年も残すところあと一か月半となり、畳替えの季節がやってきました。

畳の歴史は古く、飛鳥時代には既に畳が存在して

いたことが古事記に書かれています。

日本に現存する一番古い畳は東大寺の正倉院にあ

る御床畳だと言われています。これは藁を編んだ敷

物を重ねて折ったものを層にした寝台で、聖武天皇

が使用していました。昔の畳は御座のような敷物を

指し、使わない時は折りたたんでいたことから「た

たみ」という名前になったそうです。

平安時代には身分の高い人を迎えるために敷くも

のだった畳ですが、鎌倉時代、室町時代と時代が下

るにつれ、部屋に敷き詰める現在の畳となり、軟ら

かい床材のおかげで正座

という座り方が日本に広

まりました。寺院に普及

したのもこの時代である

と言われています。

畳講の翌日から二、三日

間、本堂内の畳の張替作

業を行います。通常通り

御参拝はできませんが、多

少ご不便をおかけします

どうぞご了承ください



大聖歡喜天利生記

神仏が衆生に利益を与えることを利生と呼びます。かつての当山誌『歡喜』に掲載された信仰体験談をシリーズでご紹介いたします。

信心の「い」③ 高松 信次郎

(歡喜二十号 昭和五十年発行より)

くどいようですが、私は専ら、お山さまへ行けば先ずお詫びをします。なぜお詫びするかというと、我々の行いは善いことばかりではありません。

昔支那の有名な詩人である白樂天が、山奥深く分け入って修行しようとしたところ、木の上に跨って座禅をしている坊さんがいました。そこで白樂天はこの坊さんに「人間の生きる道は」と問いました。すると坊さんは「善い行いをして、悪いことをするな」と答えたそうです。白樂天が「そんなことなら三才の童子でも知っている」と言いますと、坊さんは「百才の老人といえどもこれを実行出来るか」と一喝されたということです。この人が鳥窠禪師（ちようかせんじ）と呼ばれる偉い方です。全くその通りで、人間というものは善行ばかりで悪いことは絶対していけないと言える人はいません。

私も商売柄その品物を売っている以上、心に沿わぬ品物を売ったことがないとは言えません。悪い因縁も常に生じていると思いますから、ご真言によって少しでも浄化させていただいているのです。必ず悪いこと(陰)があるに違いありません。だからお詫びしてご真言を称えるのです。私は平日は心経を朝、昼、晩三遍づつ、ご真言は百八遍づつを何セット称えているか解らないほどです。そのご加護は充分いただいていると信じております。

お山さまを信ずる者はご真言を一生懸命称える、これが自分を浄めて下さるのだと思います。これが毎日の生活に自然に身につくと、商売が出来てお客さまが品物買って下さったら、有難いと思いついて『オンキリギヤクウンソワカ』女房が晩の食事すんで食器を洗う時でも、ああ今日も家中みんな元気で食事をすませられた、有難い『オンキリギヤクウンソワカ』と称えればよい。入浴してあゝいい風呂だ、気持ちよいと思ったら『オンキリギヤクウンソワカ』そのように常日頃に称えられるのが信心ではありませんか。

私がこのような「信心」を得られるのは父の体験を知っているからです。父は或る時徹底的にどん底生活に入ってしまった時があり、人伝にて聞

いて毎晩真夜中、日参して救われたのです。私はその父母の善因を受けたおかげで今日まで本当に困ったような目に会いません。明日の金が無い時でもどこからか何とか都合出来て過ぎました。

また「他人のお詣りの途中で会ったら止めるものではない」とよく父から言われました。道で知人に遭って「何処へいらっしゃるのですか」、「いやこれから何々さまへお参りに行くんですよ。」

「丁度いい、ちよつとでいいから何処かでお話しませんか」などと誘うものではない。その時はその人がその神さまなり仏さまに招かれている訳なので、絶対に足を止めてはいけなくよく言われました。これは注意すべきことだと思います。(終り)

※当時掲載された文章を再編集しています。(文責 編集部)

御奉納

西川晃敏様、岡田雅美様より中央の浴油壇に降ろす緞帳をご奉納していただきました。当山の縁起にも登場する龍・大根・巾着が刺繡された特製のものです。大般若法要の際、住職よりお加持いたしました。ありがたく使わせていただきます。



十一月行事予定

御縁日大法要

写経供養会四十周年記念法要

十一月十一日(日) 午前十一時三十分

講金 一、五〇〇円也

この一年で奉納された写経を供養します。また写経の会四十周年記念式典と表彰式があります。

御畳講大法要

十一月二十日(火) 午前十一時

講金 一、五〇〇円也

本堂の御畳替えのご寄進をお願いいたします。

朝まいり会

十一月一日〜七日 午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。

日曜勤行

十一月十一日(日) 午前九時

参加費 無料

初心の方も気軽に参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

十一月十一日(日) 午前十時/午後二時 会費

五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

午後の部は人が少ないため、落ち着いて写経が行えます。

坐禅の会

十一月二十四日(土) 午後五時〜七時 定員三十名 参加費 五〇〇円也

本堂にて坐禅を行います。定員になり次第、募集を締め切らせていただきます。

合同大般若法要

十一月二十五日(日) 午前十一時

法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんと一緒に仕上げする御礼の法要です。

十二月の行事 御縁日大法要

御開扉

十二月八日(土)

午前九時〜午後二時

参拝 無料

星祭大法要

十二月二十二日(土)

午前十一時

講金一、五〇〇円也(一鉢増毎五〇〇円)

ご祈禱のご案内

祈禱料

聖天様独特の供養法である浴油供は、密教の中で最も深秘の法とされています。この供養法は聖天様のお力により一層高められ、私どもが不可能と思われるような願

い事でも、尊天様の不思議方便のお働きを得て、必ず成就させて頂けるのであります。当山ではこの浴油祈禱を、毎朝開堂と同時に厳修しております。寺務所にて受け付けておりますので、お名前とお願いの内容、祈禱期間をお伝え下さい。

またご遠方の方やお急ぎの方は、お電話やお手紙でも受け付けております。どうぞお申込みください。

別座祈禱 壺万円(一週間)

浴油祈禱 三千五百円(一週間)

華水供 五百円(一日)

法要案内

当山では予約にて法要を行っております。寺務所にてお問い合わせください。

百味供養 法要料 八万円

沢山のお供物をお供えし、出仕の僧侶が声明をお唱えすることで、尊天さまに御礼の供養をいたします。

大般若法要 法要料 五万円

所願成就御礼の法要として、大般若経六百巻を転読いたします。

自動車加持 法要料 壺万円

当院にてお車のお加持をいたします。当日はお車にてお越しください。

皆様からのご質問、お知らせになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。